



The Japanese Academy of Home Care Physicians

●第5回日本在宅医学会大会のお知らせ

●巻頭言

今こそ家庭医を育成すべき重大なとき

佐藤 智

●第4回日本在宅医学会大会

特別講演 アジアにおける在宅医療

川原 啓美

シンポジウム I 在宅医療に必要な医療・介護の進歩

司会 齊藤 豊和, 比企 能之

(シンポジスト: 荻野美恵子, 陣田泰子, 井上善文, 安田宣成, 丹羽利充)

シンポジウム II 在宅医療における睡眠障害の重要性—睡眠時無呼吸症候群を中心に—

司会 古池 保雄

(シンポジスト: 粥川祐平, 安間文彦, 深津 博, 早河敏治, 野田明子, 中田誠一, 岩山範久)

シンポジウム III 在宅ケアにおける重点的課題

司会 前川 厚子

(シンポジスト: 毛受矩子, 田中靖代, 石山満夫, 当間麻子, 鈴木 定)

ワークショップ 在宅医療のための有効な連携のあり方と通信技術

司会 石垣 泰則, 山内 一信

(石井令三, 市川朝洋, 大塚由佳, 池戸昌秋, 青木 猛, 河村徹郎)

教育プログラム

1 慢性呼吸不全患者に対する在宅呼吸ケアのノウハウを学ぶ

安藤 守秀

2 在宅医療における栄養管理のノウハウを学ぶ

金子 徹也

3 在宅での悪性腫瘍の管理ならびに疼痛管理のノウハウを学ぶ

齊藤 寛子

在宅癌患者の疼痛薬物治療

武藤 淳

在宅癌化学療法と緩和医療

4 在宅医療における腎保護療法・腎補助療法のノウハウを学ぶ

中井 滋, 荒木 秀子

5 在宅導入時の医療と生活支援

川島孝一郎

一般演題

●原著 訪問診療からの離脱要因に関する検討

土井 昭宏, 他

投稿規定 83

編集後記 86

投稿承諾書 84

日本在宅医学会

◆巻頭言

今こそ家庭医を育成すべき 重大なとき

佐 藤 智 日本在宅医学会会長



日本を包む世界の状況は、第4回総会が名古屋で開催された今年の2月から既に大きく変わりつつあります。世界平和は未だ訪れず、日本の医療界も「病院不信」の流れを食い止めることが出来ません。「人の生命」が結果的には軽んぜられ、医療過誤が毎日のように報ぜられています。

今や「生命の尊厳」が見失われがちになり、私たち医療に携わる者の責任が、厳しく問われています。この学会は、単に狭い意味での在宅医療の質の向上、在宅医学の樹立のみを目指すものではなく、「人の全生涯」にわたって、質の高い生涯をおくれるように支えることが出来る家庭医の育成を目指しています。日本には、曾て素晴らしい家庭医が多くおられましたが、この50年間に医療全体が「病院医療」に傾き、急速にその数は減少しました。

患者側も「近くの開業医」より、「遠くの大病院」を信頼するようになり、一時は「3時間待って3分の診療」と揶揄される状況になりました。このような事態を憂慮する人々は多く、医師の中から、また行政、患者などの中から改革案が出されていますが、いまだに良い案はありません。

この問題の解決の基本は「医とは何か」に立ちかえり、「家庭人の健康を保持するため医師は何をすべきか」を改めて問うことが急務です。それに携わる家庭医の質の向上をはかる方法は幾多ありますが、私共は資格制度を確立し、そのための研鑽を重ねることがその一つであると考えます。

私共は、医師になるために、6年間の医学教育を受け、国家試験に合格しなければなりません。この医学教育は、まず「ひと」を物質とみる解剖学の実習に始まり、生理学、病理学というような基礎学問をへて、臨床に進みますが、日本の医学教育の中には「在宅医学」「在宅臨床」の講義、実習は殆ど含まれていません。また近年は、その家庭医を教育する力をもつ医師も激減しました。

この学会の設立の趣旨の一つは、質の高い家庭医を育成することにあり、そのための方策として「認定医制度」を考えております。この制度は日本では未だ未熟ですが、あせらずに、世界的な評価に耐え得るようなものに育ててゆきたいと思います。

会員皆様からの積極的なご意見をお待ちしております。